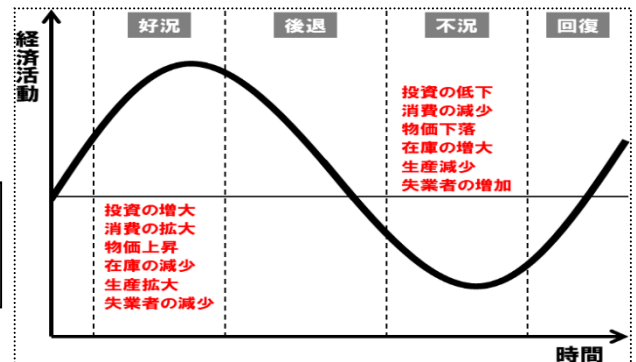
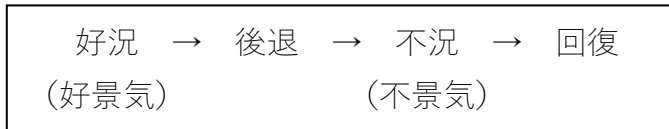


第3節 生産と消費 ⑤景気と金融政策 P158～161

○景気とは

景気：経済全体の動きのこと

→ 需要量と供給量の動きに対応して
常に変動しており、波を繰り返す



好況：商品が売れ、企業の生産が増え、家計の所得が増加（需要量 > 供給量）

→ 消費の拡大により、物価が上昇する（インフレーション）

不況：商品が売れず、企業の生産が減り、家計の所得が減少（需要量 < 供給量）

→ 消費の縮小により、物価が下落する（デフレーション）

○景気変動によるデメリットとその対策

不況

Q 不況の際に起こる家計や企業への悪い影響とは何だろう？
(P144～145を参考にしよう)

- ・失業が増え、商品を購入できなくなる
- ・商品が売れないため、企業は商品を生産できず、倒産する

好況

Q 好況の際に起こる家計や企業への悪い影響とは何だろう？
(P144～145を参考にしよう)

- ・家計は生活に必要な商品を購入できなくなる
- ・企業は原材料の調達が難しくなる

対策

金融政策：日本銀行が行う景気の安定化政策のこと公開市場操作という方法が使われる

日銀が行う公開市場操作

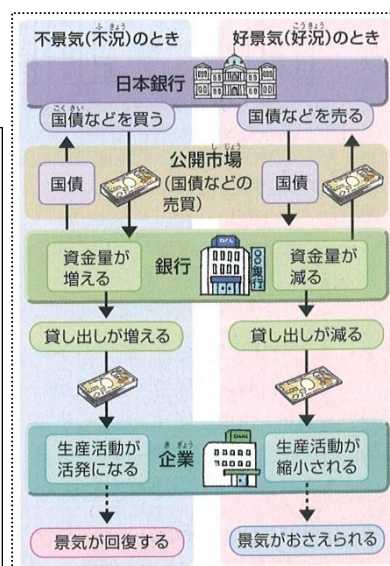
「買いオペレーション」

日銀が一般銀行から国債を買う

↓
一般銀行は資金量が増える

↓
一般銀行の貸し出し量が増える

↓
個人や企業がお金を借りやすくなり、世の中の生産活動が活発になる = 景気が回復する



「売りオペレーション」

日銀が一般銀行に国債を売る

↓
一般銀行は資金量が減る

↓
一般銀行の貸し出し量が減る

↓
個人や企業がお金を借りにくくなり、世の中の生産活動が縮小する = 景気がおさえられる

○為替相場

為替相場：通貨と通貨を交換する比率のこと

円高：1 ドル = 100 円 → 90 円

⇒ 日本から見て安くアメリカのものが買える

円安：1 ドル = 100 円 → 110 円

⇒ 日本から見てアメリカの製品が高くなる

○日本貿易の変化

戦後：加工貿易により貿易黒字による成長

現在：工場の海外移転、部品調達先の海外企業への切りかえ

→ 海外での生産増加 = 多国籍企業化、産業の空洞化

